

オミクロン株 崩滅

陽性者と同乗 全員宿泊施設へ

自治体ゲノム解析 最大限実施

新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」の市中感染を見つけるため、厚生労働省は、デルタ株に対するスクリーニング検査を応用して疑い例を洗い出すように自治体に要請した。各国の感染状況を見ながら、日本に入国後に施設での待機を必要とする国や地域の指定も広げている。市中感染の監視と水際対策の両面で対策を強めている。▼30面=京都「コロナなら入院」

オミクロン株は感染力が強い可能性が指摘されており、早期の封じ込めが重要になる。

厚労省が2日に出した通知では、市中で新型コロナの陽性が確認された場合、自治体はデルタ株に特徴的な「L452R」の変異を見つける専用のPCR検査を実施。「L452R」の変異はオミクロン株にはないため、検査の結果が陰性ならオミクロン株の感染を疑う。さらにゲノム解析を実施して、オミクロン株かどうかを確かめる。オミクロン株に対するスクリーニング検査は国立感染症研究所が開発中。東京都は、オミクロン株を判別するPCR検査を独自に確立、追加

検査をして1日以内にオミクロン株か否かを判別できるという。

政府・自治体の オミクロン株対策

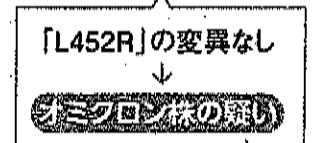
水際対策の強化

- ・入国制限
- ・感染者は原則入院
- ・濃厚接触者も施設へ



市中感染の監視

- ・デルタ株のスクリーニングを応用



- ・ゲノム解析も最大限実施

宿泊施設が不足

一部自宅待機に

一方、施設待機が必要な国・地域の指定を増やした結果、今後施設が不足する見込みとなつたことから、政府は3日夜、一部

の対象国について自宅待機に切り替えると発表した。オミクロン株以外の変異

施設待機を指定した国・地域からの入国者は4日午前0時以降、ワクチンを接種していれば自宅待機とする。(枝松栄樹、関口佳代子)

だし、4日には米カリブオルニア州、アラブ首長国連邦などが加わる。

さらに、オミクロン株の陽性者は原則入院させて、陰圧された個室に隔離する方針だ。オミクロン株の陽性者と同じ飛行機に乗った人は全員を濃厚接触者として扱い、宿泊施設に入るこ

とを求める。一方、水際対策では、政府は外国人の新規入国をすでに一時停止した。海外でオミクロン株が確認される度に、入国後に施設待機が必要な国や地域の指定も拡大するよう求めた。

厚労省は自治体が陽性者の5~10%に実施してきたゲノム解析についても、検査能力に応じて最大限実施するように求めた。

一方、水際対策では、政府は外国人の新規入国をすでに一時停止した。海外でオミクロン株が確認される度に、入国後に施設待機が必要な国や地域の指定も拡大するよう求めた。

一方、水際対策では、政

府は外国人の新規入国をすでに一時停止した。海外でオミクロン株が確認される度に、入国後に施設待機が必要な国や地域の指定も拡大するよう求めた。

一方、水際対策では、政